

～ 唐津市短観 平成 29 年下半期調査結果 ～

- 現況は「悪い」（現況 DI : ▲17）、見通しはやや「悪化」（見通し DI : ▲5）
- 業種別には、宿泊業で現況・見通しとも良い。卸売・小売業や飲食業は現況が悪い。前期の現況が良かった建設業は、今期は悪化。製造業は、現況は悪いものの改善の見通し。

■調査概要

- 調査時期： H30 年 1 月下旬～3 月下旬
 調査方法： 電話による聞き取り
 調査内容： 前期と比較した今期（H29 年 7～12 月）の景況感および
 今期と比較した次期（H30 年 1～6 月）の見通し
 調査対象： 唐津市内の事業者からランダムに抽出した 7 業種 150 事業所
 回答数： 133（回答率 88.7%）
 分析： 公益財団法人九州経済調査協会

■当期の結果概要

現在の景況感は「悪い」が「良い」を上回り、現況 DI は▲17%ポイントとなりました。業種別には、④宿泊業と⑦運輸業・その他のサービス業を除く 5 業種で現況 DI がマイナスとなっています。6 か月後の見通しは「悪くなる」が「良くなる」を上回り、見通し DI は▲5%ポイントとなりました。業種別には、④宿泊業や③製造業で改善傾向となる一方で、①農業や⑤卸売・小売業、②建設業では悪化傾向になるとの見通しです。

現在の景況感・6 か月後の見通しの判断構成比・DI

	現在の景況感				現況 DI (%ポイント)	6 か月後の見通し				見通し DI (%ポイント)
	回答数 (n=)	良い (%)	普通 (%)	悪い (%)		回答数 (n=)	良くなる (%)	変わらない (%)	悪くなる (%)	
総合	133	15.0	52.6	32.3	▲ 17	133	16.5	61.7	21.8	▲ 5
①農業	11	0.0	81.8	18.2	▲ 18	11	9.1	45.5	45.5	▲ 36
②建設業	20	10.0	55.0	35.0	▲ 25	20	15.0	55.0	30.0	▲ 15
③製造業	34	17.6	50.0	32.4	▲ 15	34	14.7	76.5	8.8	6
④宿泊業	9	66.7	33.3	0.0	67	9	33.3	55.6	11.1	22
⑤卸売・小売業	28	7.1	46.4	46.4	▲ 39	28	14.3	64.3	21.4	▲ 7
⑥飲食業	19	15.8	36.8	47.4	▲ 32	19	31.6	36.8	31.6	0
⑦運輸業・その他のサービス業	12	8.3	83.3	8.3	0	12	0.0	83.3	16.7	▲ 17

■景況感の推移

現況D Iは、総合で前期から横ばいとなりました。④宿泊業では改善、②建設業は悪化が顕著です。見通しD Iは、総合で悪化しています。①農業や⑦運輸業・その他のサービス業で悪化が顕著です。

現況D Iの推移

	対象期：	
	H29年 上半期	H29年 下半期
総合	▲ 17	▲ 17
①農業	▲ 8	▲ 18
②建設業	10	▲ 25
③製造業	▲ 22	▲ 15
④宿泊業	0	67
⑤卸売・小売業	▲ 34	▲ 39
⑥飲食業	▲ 10	▲ 32
⑦運輸業・その他のサービス業	▲ 36	0

見通しD Iの推移

	対象期：		
	H29年 上半期	H29年 下半期	H30年 上半期
総合	-	0	▲ 5
①農業	-	8	▲ 36
②建設業	-	▲ 10	▲ 15
③製造業	-	3	6
④宿泊業	-	27	22
⑤卸売・小売業	-	▲ 13	▲ 7
⑥飲食業	-	5	0
⑦運輸業・その他のサービス業	-	0	▲ 17

■当期の主なコメント

現在の景況感	良い	・コメントなし
	悪い	・大型店の出店が影響している（卸売・小売業） ・
6か月後の見通し	良くなる	・原発の再稼働に期待したい（飲食業、その他サービス業）
	悪くなる	・新規店舗の出店の影響が出そう（飲食業） ・低料金の店舗が増えて顧客が減少（その他サービス業）

唐津市短観（唐津市短期経済観測調査）とは？

各企業からの調査結果である「良い」「普通」「悪い」の3通りで回答したものを集計して、D I※で表したもの。D Iは「良い」という回答の比率から「悪い」という回答の比率を引いて指数化するため、全調査企業が「良い」と回答すれば100、全ての企業が「悪い」と判断すれば▲100となり、ゼロが景気の拡大縮小の分かれ目の目安となる。

※D I（Diffusion Index）：企業や業界の景況感などを数値化した指標のことで、日本銀行の短観（全国企業短期経済観測調査）などで用いられている。